



創刊号
発行
富士市消防団

富士市永田町1丁目100番地
電話 (0545) 51-0123
内線 (3333)
FAX (0545) 53-4633

"自分たちの街は自分たちで守る"



平成3年消防出初式写真コンクール
第1席(市長賞) 佐瀬昇さんの作品

消防団員の皆様には、日頃から常に郷土愛の精神と責任感をもって、地域住民の生命財産を火災等の災害から守り、生活の安全を確保していくため、献身的なご奉仕を賜り、そのご苦勞に対し、衷心より感謝申し上げます。

我が市の消防力は、関係各位のご努力とご協力により、今日のような近代的な消防に整備されてまいりました。しかしながら、火災の発生件数が依然として、増加の傾向にあること



発刊のことば

富士市長 鈴木清見

とは、誠に憂慮にたえません。

これらの火災に対処するためには消防関係者が一丸となって生命安全を第一義とする高度の消防技術の修得、予防査察の強化、消防施設の整備を進めることが急務であり、市といたしましては消防水利の整備や消防車両の更新、富士市消防団活性化総合計画などのハード・ソフト両面整備により消防体制をさらに充実させてまいります。

第十二回、富士市消防出初式写真コンクール審査が終わり、市内外から百三十二点の応募を数えた。今年一月十三日(日)に市役所南側の青葉通りをメイン会場に実施した出初式について、写真撮影を通じて消防と市民のつながりを深め、消防業務への理解と協力の意識を高めることを目的に行なわれたものである。

審査は、消防長を審査長に消防団・防火協会の代表、写真専門家ににより各賞を決定した。選考にあたっては、コンクールの趣旨に沿い、出初式の勇壮さや、華やかさ等に主眼が置かれた。

発刊にあたって

消防長 大久保照男

永い消防団の歴史の中にあつて、消火作業をはじめとして、あらゆる災害に対応する、地域防災の核として位置づけられ、日夜を分たぬ出勤又は訓練にご尽力されている団員各位に、衷心より厚くお礼申し上げます。

近時の災害は、社会経済の変化と共に、複雑多様化の傾向にあり、平成2年消防団活性化基本計画が示され、その一環として、今回の機関紙発行が予定されたものであります。各団相互に有効な情報や意見交換の場として活用され、消防団に期待される「地域に根ざし愛される組織」として街づくりに活躍されることを祈念いたします。

- ▽市長賞 佐瀬昇(松岡)
- ▽議長賞 草間 巖(五貫島)
- ▽消防長賞 稲葉敏夫(伝法)
- ▽消防団長賞 鈴木敏雄(大淵)
- ▽防火協会会長賞 後藤 清(吉原四丁目)
- ▽奨励賞 志田政敏(今泉) 川村英一(広見本町) 辻隆志(入山)
- ▽入選 川村英一(広見本町) 小林賢一(富士宮市宝町) 鈴木公子(中野) 浜野貞之(厚原) 遠藤正(大野町) 佐野廣(平垣町) 池原嘉明(伝法) 小松加代(中央町) 草間巖(五貫島) 鈴木巖(中島)



第一分団詰所改築のため、倉庫を清掃したところ、中から真鍮製のプレートがバラバラで見つかり、それを継ぎ合せたところ、吉原町消防組御大典記念、昭和三年四月三日と記され、組頭以下五十九名の名前が彫ってありました。それには、現在の分団員数名の祖父の名前も載っています。又、昭和六年駿豆地方の震災に際して、被災地の復興に寄与したために贈られた感謝状等も見つかり、詰所に大切に保存して、全分団員の誇りとしております。

我が分団

第一分団 分団長 藤 文 公

本日ここに、理事者をはじめ関係各位の深いご理解により、「消防団だより」を発行出来ますことにに対し衷心より感謝申し上げます。複雑化する社会情勢にあつて、住民生活の安全と密接なかわりのある消防行政を推進するためには、あ

らゆる面で住民の理解と協力が必要であり、常に住民とのよりよい交流を図って一層の信頼関係を保たなければなりません。住民の理解と協力を得るきっかけとなるのは、「知る」と「知らせること」から始まるといわれます。ここに住民と消防を結ぶかけ橋である広報が消防行政にとって欠くことができないものとなっております。



消防団長 鈴木 雄

発行の喜び

進しておりますが、消防団活動の住民啓発を促す第一歩として、団員用機関紙「消防団だより」を発行いたしました。内容も団員からの寄稿を基本とし、より身近なものになっておりますので、団員家族の方々の大勢に読んで戴き、消防団員のお父さんや、お兄さんの消防活動をよく理解して、水火災等の災害出場をはじめ消防訓練の出場についても、容易に出来る様なご理解を戴ければ、幸甚であります。

次回からは諸賢のご批判、ご指導を戴き更によいものを発行したいと考えております。本紙の発行を契機とし、団員はお互いの胸襟を開き、相互理解を密にし、消防職務に励まれるよう期待します。

時代も平成に変わり、五十歳を頭に、三十余名で編成され、毎月、五日と二十日を、定例の訓練日と定め、夜間にも拘らず、消防訓練に汗を流しています。又、有効な消火活動を行うため、火災出動後は、詰所において必ず反省会を開き、消火活動における若い団員の不安や疑問点を解消させる様、役員一同努力しております。消防団のPR不足が指摘されている現在、管内全域を消防ポンプ車により巡回し、火災啓蒙運動を積極的に行う等々、伝統ある第一分団の諸先輩の名を汚さぬ様、分団長の命令いっか、一丸となり消防任務に励んでおります。

優勝を目指して



第十分団 団員 鈴木 貴之

我が分団の、小型ポンプ操法要員の平均年齢は三十五歳、けっして若くはありません。このメンバーで、過去、市の訓練大会V2を果しました。これは、チームワークは勿論、

隊員一人一人の努力と、動作に対する研究心が、優勝につながったものと思えます。又、各隊員の家族の協力も忘れることは出来ません。

一日ごと暖かくなり、七月七日の富士支部査閲大会、八月二十二日の県査閲大会出場に向って、四月から訓練を行っています。過去の栄光におぼれず優勝を目指し頑張ります。

新詰所と心あらたに



第十分団 分団長 藤 文 公

この度、市当局をはじめ関係方々のご尽力により、新詰所が完成し、

三月三十一日には、市長・市議会議長・地元町内会長その他多数の方々のご臨席を戴き、盛大に落成式を挙行することが出来ました。旧詰所は過去三十年間、岩本・松岡地区の防災拠点でありましたが、老朽化し駐車スペースも無く、不便を感じる事も多々ありました。新詰所の完成は格別な喜びであります。近年の災害事情は、複雑化・大規模化の傾向にあつて我々団員は、一致団結して岩本・松岡地区の尖兵として、地域住民の信頼のもとに施設・装備を最大限に活用して、その負担に応じる覚悟であります。又、新しく消防団による新聞(消防団だより)が発行されることは、誠に喜ばしく富士市消防団が市民のために、今後益々発展されることを願っております。



緊張と静寂

第六方面隊 第二十三分団

部長 佐野孝光



訓練開始前の緊張と一瞬の静寂！
みんな無口である！各自が準備線に
集り整列を始める。前列の人の中に
は靴の「かかと」を見て自分の位置
を確認している人もいる。「始め」
の笛の音、そして「気をつけ」の号
令がかかる。その都度、背筋が伸び
足に力が入ってくる。指揮者の申告
の間、不動のまま待つ時間はけっこ

う長く感じる。「停止間の動作」の
訓練は緊張が連続するが「行進間の
動作」に移り「かけ足行進」が始ま
る頃から緊張感がとれ、分列行進が
終わり「左向け止まれ」まで自分は
殆ど失敗は無く動けたと思う。これ
は積重ねの訓練の成果によるものと
自負したいところであります。「右
向け、かけ足、前へ進め」の最後の
号令と共に見学者から拍手があり、
それを聞くと、気持ちが安らぎ、終
わったという満足感を与えてくれる。

入団を振り返って

第二一分団

部長 河合正公



近所の人に連れられて、おもしろ
半分に古ぼけた詰所に足を踏み入れ
たのは、昭和五十一年の秋でした。

消防に馴染む間もなく、その年の
訓練大会に選手として出場しました
その当時は若さと体力にものを言わ
せた「がむしゃら」にやっていた
ように思います。早や十四年の歳月
がたちました。ポンプ車も詰所も新
しくなり、若い団員も入り、すっか
り様子も変わって来ました。

最近思うのですが、消防団に入っ
て得たものは、家族同様に付合える
素晴らしい仲間が出来た事です。冬
の寒い真夜中の火災出場、夏の暑さ
の中での消防訓練等、つらい事もあ
りましたが、慰安旅行、家族慰安会
消防まつりなど楽しい事も沢山あり
ます。多様化された社会の中で、地
域の防災活動も大変になってきてお
りますが、火事の火は消しても、消
防団の火を絶やしてはいけません。
私は今後も、消防団員としての自
覚と誇りをもって、微力ながら消防
活動に奉仕して行きたいと思えます。

特別警戒

第九分団

分団長 岩滝敏之



平成二年七月二十九日から十一月
二十八日の間、須津地区の留守宅を
狙い放火した六件の火災は、我々の
第九分団では経験したことが無い、
戸惑うほどの事件でした。

二件目の火災が発生した八月十三
日の翌日、詰所において分団の緊急
会議を開き十五日より、須津地区の
特別警戒を実施することとした。

はじめは、消防自動車による巡回
を行ったが、警察の捜査に支障があ
るとの判断により、団員六名の班編
成による、徒歩での巡回に切替えて

毎晩九時半から十一時半までの間を
交替で実施した。

火災について新聞、テレビで報道
されたことにより、住民の感情を
煽り、放火に対する恐怖感を一層高
めた。須津地区の各町内では、自主
的に夜警団を組織し、巡回する程に
なったその矢先、白昼の午後三時頃、
中里八幡町の留守宅から火災が発生
地区住民は勿論のこと、警察、消防
までも混乱させる始末となった。

この一連の放火事件の容疑者とし
て、住所不定の一人の男が沼津署に
逮捕されたのは、分団が特別警戒を
始めてから百十三日目のことであっ
た。

消防団に入って

第十四分団

団員 渡辺芳雄



消防団に入って、早一年が過ぎま
した。消防署・消防団・町内の青年
消防、これらの違いさえ分かりませ
んでした。最近になり、消火活動以
外に随分用事が多いことも分かって
来ました。去年の入団前は、公私共
に忙がしい時期で団勧誘された時、
「余分な事にかかわりたくないな」
と思いましたが、いざ入団してみ
て良かった事は、人間関係が広が
りました。反面、苦労した事は、訓練
大会です。私は規律訓練に参加しま
したが、教官の言っている事が分か
らず、きろきろ回りを見てしま
いました。なかでも、「ゴを組む」
「ゴを解く」の動作が分からず、団
の先輩に聞きましたが、良く分から
ず家に帰って本を見て納得した事が
ありました。これからも、頑張っ
ていきたいと思えます。

二十二歳で入団

第三分団 部長 大村友味



私は、二十二歳で富士市消防団に
入団しました。当初は、消防団の果
たす役割や、活動など何も分らず、
まごつく事もありましたが、消防団
と言うものが、如何に地域社会のた
めに重要であり、役に立とうとして
いる団体か、と言う事が分って来ま
した。特に、火災出動要請が出た場

合には、昼夜を問わず現場に出場し、
身の危険をも顧みず、延焼や類焼を
防止している消火作業の姿は、凛と
するものを感じます。

消防団行事の一つに査閲大会があ
り、私も、ポンプ車操法に何回か出
場させてもらい、大勢の人達の協力
や、応援を得て、昭和五十四年八月
には、県大会へ出場しました。こう
して、十九年の間に、数々の体験や、
知識及び多くの友人、知人に巡り合

えた事は、私自身にとっても大変貴
重な財産であり、団員になって良か
ったと思えます。
これからも、消防団員の一人とし
て頑張っていきたいと思えます。



第五方面隊 第十八分団 部長 仙頭 光雄

楽しかったバス旅行

消防団では、三年に一度、消防団員家族慰安会を開催しております。今年はその年にあたり、前回の運動会に代わり、方面隊毎に計画を立て家族慰安会を実施することになり、我が第五方面隊は、何度も会合を開き、団員の家族の方々の日頃の苦勞に対する感謝の気持ちと、併せて団員相互親睦を尚一層図るためバス旅行を実施することに決定しました。十一月二十五日は早朝から、曇一つない晴天に恵まれ、バス四台は快調に伊豆富士見ランドに一四四名を乗



優勝旗をなびかせ凱旋

第七分団 部長

米山 享範

「優勝」できるか

「消防団だより」の創刊に当たりお祝い申し上げ、編集委員のご苦勞に対し、敬意を表します。我が7分団はここ数年ポンプ車操法の部において優勝を重ねてまいりましたが、なんと三つとも最初に優勝するまでが長く苦しい時代でした。一生懸命練習しても良い成績を得る事ができませんでした。

どうしたら「優勝」できるか、この目標に向かって指導員をはじめ諸先輩方よりアドバイスを受け、情報を集め研究してまいりました。練習の場所については、ある程度の広さと夜間照明が必要であり、確保には多くの方に協力頂きました。そうした体制作りと、「タイムを縮めるには」「確実に動作とは」「ホースの扱め方は」「等ソフト面での課題を一つずつ解消していきました。また、選手の仕事の關係上練習のスケジュールにも苦勞しましたが、各々が譲り合い、理解し合い調整できました。また、選手以外の団員が時には準備照明、ホース巻きをしたり、それこそ全員が一丸となって働いていただきました。昭和五十八年十月富士市訓練大会の成績発表の時、心臓は

ドキ、息をこらし、固唾を飲んで聞いていました。「ポンプ車操法の部第三位〇〇分団」、「第二位〇〇分団」まだ我が分団名がでてきません。そして、「優勝第七分団」と同時にウォーという喚声が腹の底から湧き出て、口々に「やった！」「やった！」を連発し合い、顔を見合わせ手を取り合せて喜びました。どの顔も歯を刺き出し、眼はキラキラ輝き、ニコニコしていました。そのうちに目頭が熱くなるのを感じ照れ笑いしていたのを昨日のように思い出します。帰りの消防車の荷台で優勝旗をなびかせ凱旋して行く時、ちよつと冷たい秋風が何とも心地よく感じられました。「そんな思いを後輩に」を合言葉に連勝を重ねて行けたらと思います。

また来たいね

目的地的富士見ランドには、午前十時頃到着しました。眺望は素晴らしい、全員が感激し自然を十分堪能してくれたようです。また、大広間で食事をし、ステージのマジックショーを見ながら、和やかな楽しい一時を過ごしました。帰りの車中でも、多くの人達から又来たいねとの声が聞かれ、バス旅行は初期の目的を十分達成出来たものと関係者に感謝しているところで

消防団の主要行事

- ▽分団長行政視察研修 六月下旬
- ▽ソフトボール大会 七月二十一日
- ▽消防団員特別健康診断 八月中旬
- ▽静岡県消防団員査閲大会 八月二十二日 草薙
- ▽市訓練大会 十月六日
- ▽秋季火災予防運動 十一月九日・十五日
- ▽消防まつり 十一月十日
- ▽火災期特別警備 十二月二十日
- ▽春季火災予防運動 四年二月二十八日
- ▽三月七日

ちよつと一言

火の用心の由来
記録のうえで「火の用心」という文句の一番古いものは、天正十二年(1584年)、徳川と豊臣が愛知県小牧山で戦ったとき、家康の家来の多作左衛門が団もとに送った「一筆啓上火の用心、おせん泣かすな馬肥やせ」の陣中便りの一節といわれている。

徳川幕府が「火の用心」の字句を使った最初の文書は、慶安元年(1648年)12月に発した「一つ、町中の者は交代で夜番をすること。月行事は時々夜番を見廻るべし。店子たちは各自に火の用心を嚴重にせよ」という町触れといわれている。

募集

*今、若い人の力を消防団は求めています。
消防団に入団するには、地域の消防団員または町内会長、区長さんに申し出て下さい。

募集

消防団広報紙編集委員会では次回の原稿を募集しています。
○枚数 四百字詰原稿用紙二枚程度
○間合せ (消防団広報紙編集委員会)
又は、消防本部管理課
○締切り 十月末日